Japan Lifeline



…for patient comfort.

2024年3月期
第3四半期決算説明会資料

決算発表・決算説明会：2024年2月2日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（Q3累計）

Japan Lifeline

Q3累計実績 損益ハイライト

売上高		営業利益		四半期純利益	
38,302 百万円*1	YoY ▲195 (▲0.5%)	8,450 百万円	YoY +518 (+6.5%)	6,173 百万円	YoY +1,601 (+35.0%)

- ✓ **売上高はわずかに減収**。堅調な自社製品が、Baylis社製品の商流変更*2等のマイナスをカバー
- ✓ **営業利益は増益**。自社製品比率の上昇に伴う粗利率の改善
- ✓ **純利益は大幅増益**。前年同期に特別損失の計上あり

品目別売上高 ハイライト

リズムディバイス YoY +8.1%

↗ (+) S-ICDが好調

EP/アブレーション YoY ▲6.8%

↘ (－) Baylis社製品の商流変更
(＋) AF*3関連製品が伸長

心血管関連 YoY +11.5%

↑ (+) 人工血管関連が堅調
(+) 脳血管関連が好調

消化器 (消化器及びCI事業) YoY ▲35.7%

↓ (－) CI事業*4の縮小
(＋) 胆管用チューブステントが好調

ガイダンス

最新の予想(2023.11.6発表)から変更なし

*1 金額百万円未満は切捨（以降のスライドも同様）
*2 Boston ScientificがBaylis Medical社を買収したことを受け、2023年3月末でBaylis社製品の独占販売が終了。4月以降、当社はBoston社に販売支援サービスを提供する形態へ移行
*3 心房細動（Atrial Fibrillation）
*4 冠動脈インターベンション(Coronary Intervention)

2024/3期 連結業績概況（Q3累計）

Japan Lifeline

✓ 好調な自社製品により**減収幅をわずかに抑える**一方、粗利率の改善がコスト増を吸収し**増益**

（単位:百万円）	2024/3期 Q3累計 実績	YoY	%	2023/3期 Q3累計 実績
売上高	38,302	▲195	▲0.5	38,498
売上総利益	23,305	+1,164	+5.3	22,140
構成比	60.8%			57.5%
販管費	14,854	+645	+4.5	14,209
構成比	38.8%			36.9%
営業利益	8,450	+518	+6.5	7,931
構成比	22.1%			20.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,173	+1,601	+35.0	4,571
構成比	16.1%			11.9%
自社製品比率	59.0%			54.4%

売上高　YoY ▲0.5% 減収

(+) 既存領域が堅調 (+2,566M 「M」＝百万円、以下同)
(+) 新領域(脳血管・消化器)が順調 (+714M)
(−) Baylis社製品の商流変更 (▲2,689M)
(−) CI事業の縮小 (▲786M)

営業利益　YoY +6.5% 増益

(+) 自社製品比率が上昇 (+4.6pt) 、
　　売上総利益率が改善 (+3.3pt)
(−) 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、
　　賞与引当金を繰入 (▲320M)
(−) 販売関連費の増加 (▲334M)

四半期純利益　YoY +35.0% 増益

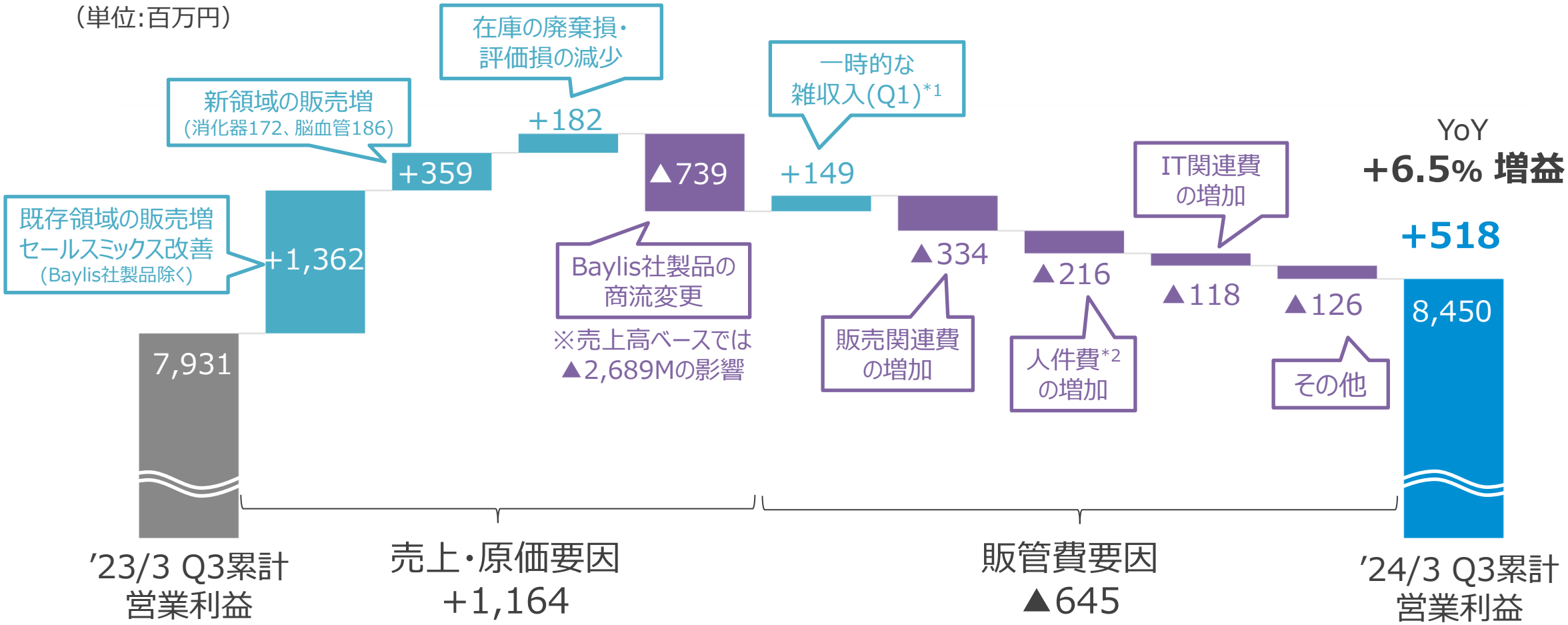
(+) 前年同期に特別損失あり(投資有価証券評価損) (+1,190M)

2024/3期 連結営業利益 増減分析（Q3累計）

Japan Lifeline

✓ 既存領域と新領域がともに順調に進捗。Baylis社製品の商流変更に伴うマイナス影響や販管費の増加を吸収し、**営業増益**

（単位:百万円）

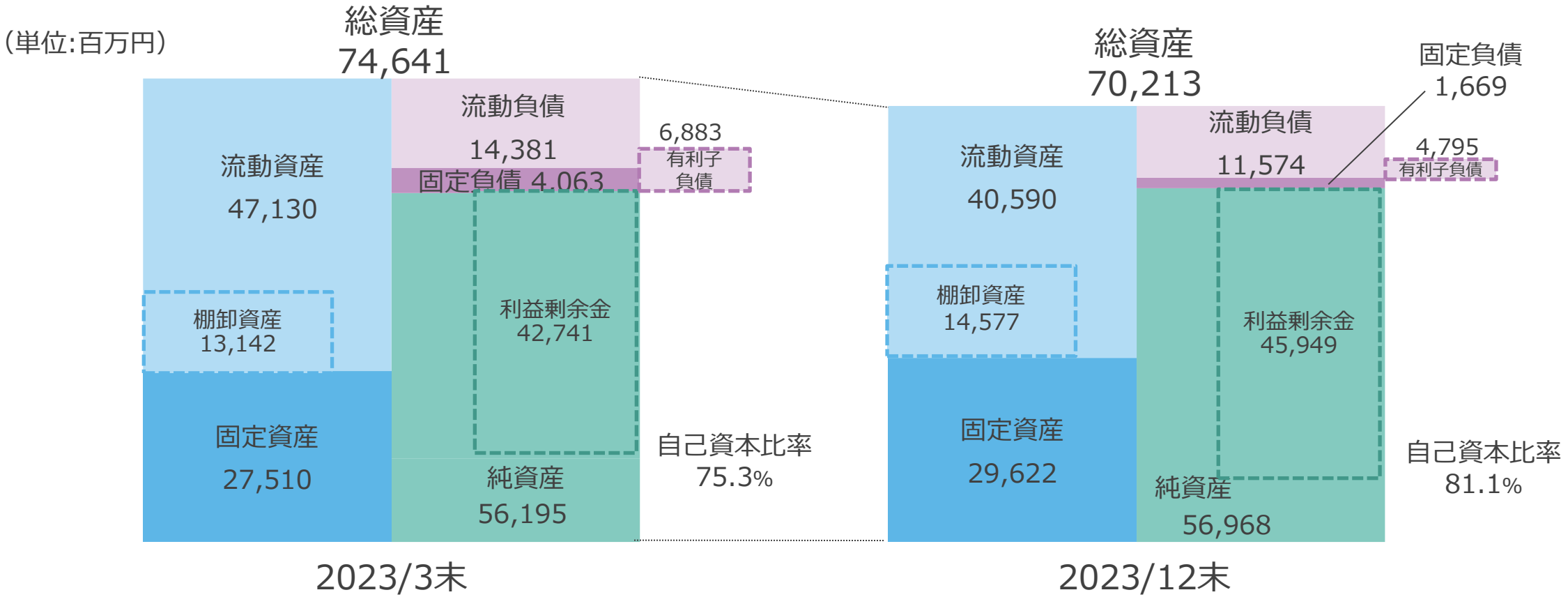


*1 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する備品の売却等
*2 従業員の業績連動決算賞与の導入を含む

2024/3期 連結貸借対照表（前期末vsQ3末）

- ✓ 流動資産　▲6,539 ⇒ (−)現金及び預金の減少、(−)未収入金の減少
- ✓ 固定資産　+2,111 ⇒ (+)投資有価証券の取得
- ✓ 流動負債　▲2,806 ⇒ (−)有利子負債の返済、(−)賞与引当金の減少、(−)未払消費税の減少
- ✓ 固定負債　▲2,394 ⇒ (−)退職給付信託の設定
- ✓ 純資産　+773 ⇒ (+)当期利益の計上、(−)剰余金の配当、(−)自己株式の取得

（単位:百万円）



本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2024/3期 Q3累計 品目別売上高

- ✓ AF症例数は概ね想定通りで**販売は堅調。**EP/アブレーションや心血管関連の自社製品がけん引
- ✓ 新領域（脳血管・消化器）は想定を上回る
- ✓ Baylis社製品の商流変更（EP/アブレーション）やCI事業の撤退の影響をほぼカバーし、**10-12月では増収を達成**

（単位:百万円）	2024/3期 Q3累計 実績	YoY	%	2023/3期 Q3累計 実績
リズムディバイス	10,144	+764	+8.1	9,380
EP/アブレーション	18,154	▲1,320	▲6.8	19,474
心血管関連	8,985	+924	+11.5	8,060
消化器（消化器及びCI事業）	1,018	▲564	▲35.7	1,582
売上高 合計	38,302	▲195	▲0.5	38,498

2024/3期 10-12月 実績	YoY	%	2023/3期 10-12月 実績
3,472	+386	+12.5	3,086
6,009	▲453	▲7.0	6,462
3,338	+388	+13.2	2,950
349	▲160	▲31.4	509
13,170	+161	+1.2	13,009

2024/3期 Q3累計 リズムディバイス

S-ICDが引き続き好調

① ペースメーカ関連は、既に販売を終了した旧モデルに自主回収が発生(Q3)、交換症例が増加
② ICD関連は、オンリーワンのS-ICDが大きく伸長。四半期ベースで過去最高
③ その他(AED関連)は堅調に推移

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	Q3累計 実績	YoY	%	Q3累計 実績
① ペースメーカ関連	3,924	+145	+3.9	3,779
② ICD関連	5,921	+586	+11.0	5,334
③ その他*1	298	+31	+11.8	267
リズムディバイス 計	10,144	+764	+8.1	9,380

2024/3期			2023/3期
10-12月 実績	YoY	%	10-12月 実績
1,371	+141	+11.5	1,229
2,009	+252	+14.3	1,757
91	▲7	▲7.5	99
3,472	+386	+12.5	3,086

*1 AED関連

2024/3期 Q3累計 EP/アブレーション

「RF Needle」の商流変更が響くが、自社製品はほぼ2桁増の成長

① EPカテーテルは、AF症例数の増加(Q3累計・前年同期比8～9%増)*1を背景に、自社製品が前年同期比10%程度の増収
② アブレーションカテーテルは減収。HeartLight X3の販売が低調
③ その他は、「RF Needle」が大幅な減収。止血デバイスは12月よりフルリリース、良好な立ち上がり

(単位:百万円)	2024/3期 Q3累計 実績	YoY	%	2023/3期 Q3累計 実績	2024/3期 10-12月 実績	YoY	%	2023/3期 10-12月 実績
① EPカテーテル	16,036	+1,424	+9.8	14,611	5,244	+413	+8.6	4,830
② ABLカテーテル	617	▲151	▲19.7	768	200	▲71	▲26.3	272
③ その他*2	1,501	▲2,593	▲63.3	4,094	564	▲795	▲58.5	1,359
EP/アブレーション 計	18,154	▲1,320	▲6.8	19,474	6,009	▲453	▲7.0	6,462

*1 Q3単体(10-12月)では、前年同期比8～9%程度増加と推定。2023年11月の上期決算発表で業績予想を上方修正、AF症例数の前提は下期で前年同期比6%、通期で同7.5%と予想。
*2 スティーラブルシース、RF Needle、止血デバイス等

2024/3期 Q3累計 心血管関連

人工血管関連は堅調、脳血管関連は成長フェーズ継続

① 人工血管関連は、安定成長が継続。OSG*1はQ3で競合の新規参入の影響があるも、市場の拡大と新製品効果を背景に四半期ベースで過去最高

② 脳血管関連は、預託施設の拡大に伴い右肩上がりの成長継続。Q1に発売した血栓吸引カテーテルは想定以上のスピードで浸透。塞栓用コイルの追加モデル投入も奏功

③ その他は、心房中隔欠損閉鎖器具が堅調

（単位:百万円）	2024/3期			2023/3期
	Q3累計実績	YoY	%	Q3累計実績
① 人工血管関連	8,030	+421	+5.5	7,609
② 脳血管関連	622	+492	+377.0	130
③ その他*2	331	+11	3.5	320
心血管関連 計	8,985	+924	+11.5	8,060

2024/3期			2023/3期
10-12月実績	YoY	%	10-12月実績
2,949	+177	+6.4	2,771
269	+196	+270.1	72
120	+13	+13.0	106
3,338	+388	+13.2	2,950

*1 オープンステントグラフト(自社製品)
*2 心房中隔欠損閉鎖器具を含む

2024/3期 Q3累計 消化器

胆管チューブステントが引き続き伸長、CI事業は終了へ

① 消化器関連は、大幅な増収。胆管チューブステントの市場への浸透が進む(シェア推定10%前半)
大腸用ステント、肝癌アブレーションニードルも堅調
② その他は、CI事業の大幅縮小に伴い減収

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	Q3累計 実績	YoY	%	Q3累計 実績
① 消化器関連	682	+222	+48.2	460
② その他*1	335	▲786	▲70.1	1,122
消化器 計 (消化器及びCI事業)	1,018	▲564	▲35.7	1,582

2024/3期			2023/3期
10-12月 実績	YoY	%	10-12月 実績
238	+67	+39.4	171
110	▲227	▲67.3	338
349	▲160	▲31.4	509

*1 事業撤退を予定しているCI事業。薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等を含む

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

中期重点施策の取組状況(現時点での見通しを含む)

Japan Lifeline

✓ Q3で大きなアップデートはなし。上市した各製品はいずれも順調な立ち上がり

1. 新領域の拡大

前回からの内容更新は赤字で表記

消化器	• 胆管チューブステント「REGULUS」の市場浸透が進む【Q1～】 ターゲット施設採用率*1 Q2 40% ⇒ Q3 50%弱
心血管関連(脳血管)	• 血栓吸引カテーテル「Esperance」を発売、拡販が順調に進捗【Q1～】
心血管関連(脳血管)	• 「Esperance」はDAC*2としても承認取得、今後塞栓用コイルとのシナジーを期待【Q4～】
心血管関連(脳血管)	• 塞栓用コイルの追加モデル「Avenir Pico」を発売、シェア増に貢献【Q2～】

*1 ターゲット施設(約650)のうち「REGULUS」が継続採用された施設数(約300)の割合
*2 Distal Access Catheter。脳動脈瘤の塞栓用コイル使用症例において、デバイスを患部へ運ぶのをサポートするために用いられる

中期重点施策の取組状況(現時点での見通しを含む)(続き)

Japan Lifeline

✓ Q3で大きなアップデートはなし。上市した各製品はいずれも順調な立ち上がり

前回からの内容更新は赤字で表記

2. 競争力のある製品の継続的導入

EP/アブレーション	• 止血デバイス「VASCADE MVP」の販売開始、拡販【Q3~】
EP/アブレーション	• 心腔内除細動カテーテルの強化【Q1～Q2】、「Lumen BeeAT」を発売【Q3～】
EP/アブレーション	• 内視鏡レーザーバルーンカテーテル「HeartLight X3」が持続性心房細動にも適応拡大【Q4】
心血管関連(大動脈)	• オープンステントグラフト「Frozenix Partial ET」を発売、新規顧客獲得【Q2～】
心血管関連(心臓弁)	• Meril Life Sciences社とTAVI弁の独占販売契約を締結【Q3】

3. 資本効率を意識した経営の強化

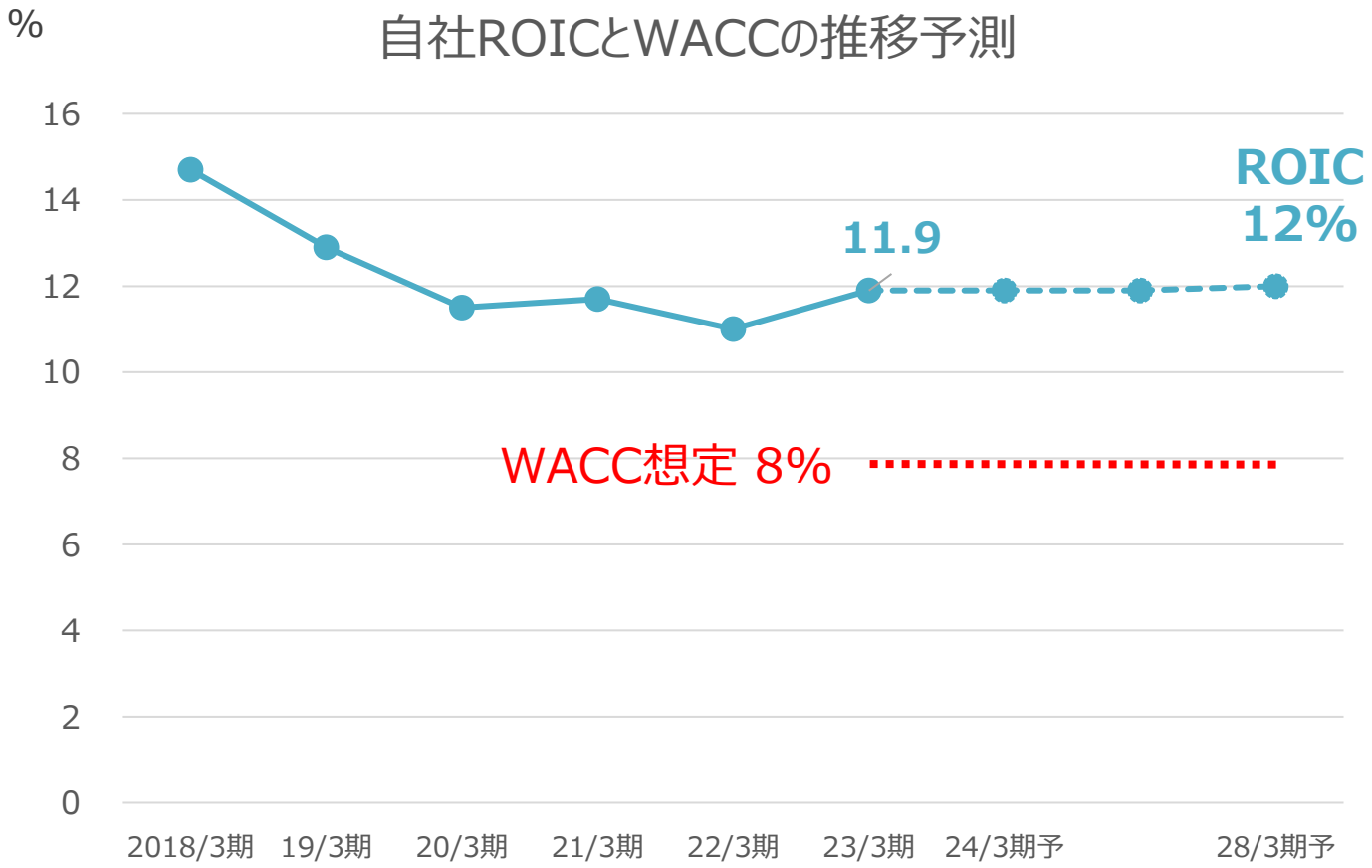
株主還元	• 自己株式の取得が進捗中*1(進捗率 92.9%*2, 2024年1月末時点) 【Q1～】
IR	• 初めての統合報告書を発行【Q4】 ⇒こちら
IR	• 東証のガイダンスに従い、CG報告書*3で資本コストに関する事項を開示*4 【Q3】

*1 期間：2023年5月11日～2024年2月29日　上限：普通株式 300万株（発行済株式数(自己株式を除く）の3.9%）または40億円
*2 取得株数ベース　*3 コーポレートガバナンス報告書　*4 株主との対話の実施状況等や資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を2023.12に新たに開示

資本コストを意識した経営の推進

Japan Lifeline

✓ WACC 8%[*1]を自社ベンチマークとして設定。中期では**成長と還元のバランスを重視**、2028年3月期にROIC 12%以上を目指す



主な施策

- 新規投資のスクリーニング強化
- 販売効率の強化
- 既存領域の強化と新領域の開拓
  (中期経営計画)
- 株主還元の強化
- IR活動の強化

*1 CAPMモデルを使用して試算。自社WACCは以下の前提を用いて計算される6~7%程度を推定。一方、一般的に資本市場ではROE8%程度がベンチマークとして広く認知されていることを加味し、自社においてはWACC8%をベンチマークとして設定した。（前提　リスクフリーレート：1%, 株式リスクプレミアム：６%、ベータ値：1.17）

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

質疑応答

スクリプトは数日以内に自社ホームページにて開示します
https://www.jll.co.jp/investors/

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第3四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (https://www.jll.co.jp/investors/) からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（Q3 10-12月）

Japan Lifeline

	売上高		営業利益		四半期純利益	
Q3 10-12月 損益ハイライト	13,170 百万円	YoY +161 (+1.2%)	2,977 百万円	YoY +165 (+5.9%)	2,139 百万円	YoY +1,270 (+146.1%)

✓ **売上高は増収。**主力の自社製品に加えリズムディバイスが好調
✓ **営業増益。**自社製品比率の上昇に伴い粗利率が改善、新基幹システム稼働に伴うコスト増を吸収
✓ **純利益は大幅増益。**前年同期に特別損失を計上

品目別 売上高ハイライト

リズムディバイス　YoY +12.5%

↑ (+) S-ICDが好調
(+) ペースメーカの交換症例増

EP/アブレーション　YoY ▲7.0%

↘ (−) Baylis社製品の商流変更
(+) AF関連製品が伸長

心血管関連　YoY +13.2%

↑ (+) 人工血管関連が堅調
(+) 脳血管関連が好調

消化器 (消化器及びCI事業)　YoY ▲31.4%

↓ (−) CI事業の縮小
(+) 胆管用チューブステントが伸長

2024/3期 連結業績概況（Q3 10-12月）

Japan Lifeline

✓ 自社製品の伸長が個別の減収要因とコスト増をカバーし、**増収増益**

（単位:百万円）	2024/3期			2023/3期
	10-12月 実績	YoY	%	10-12月 実績
売上高	13,170	+161	+1.2	13,009
売上総利益	8,073	+479	+6.3	7,594
構成比	61.3%			58.4%
販管費	5,096	+314	+6.6	4,782
構成比	38.7%			36.8%
営業利益	2,977	+165	+5.9	2,811
構成比	22.6%			21.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,139	+1,270	+146.1	869
構成比	16.2%			6.7%
自社製品比率	58.8%			55.3%

売上高　YoY +1.2% 増収

(+) 既存領域が好調 (+1,011M)
(+) 新領域(脳血管・消化器)が良好に進捗 (+263M)
(−) Baylis社製品の商流変更 (▲887M)
(−) CI事業の縮小 (▲227M)

営業利益　YoY +5.9% 増益

(+) 自社製品比率が上昇 (+3.5pt)、売上総利益率が改善 (+2.9pt)
(−) 販売関連費の増加 (▲113M)
(−) 新基幹システムの稼働に伴うIT関連費の増加 (▲62M)

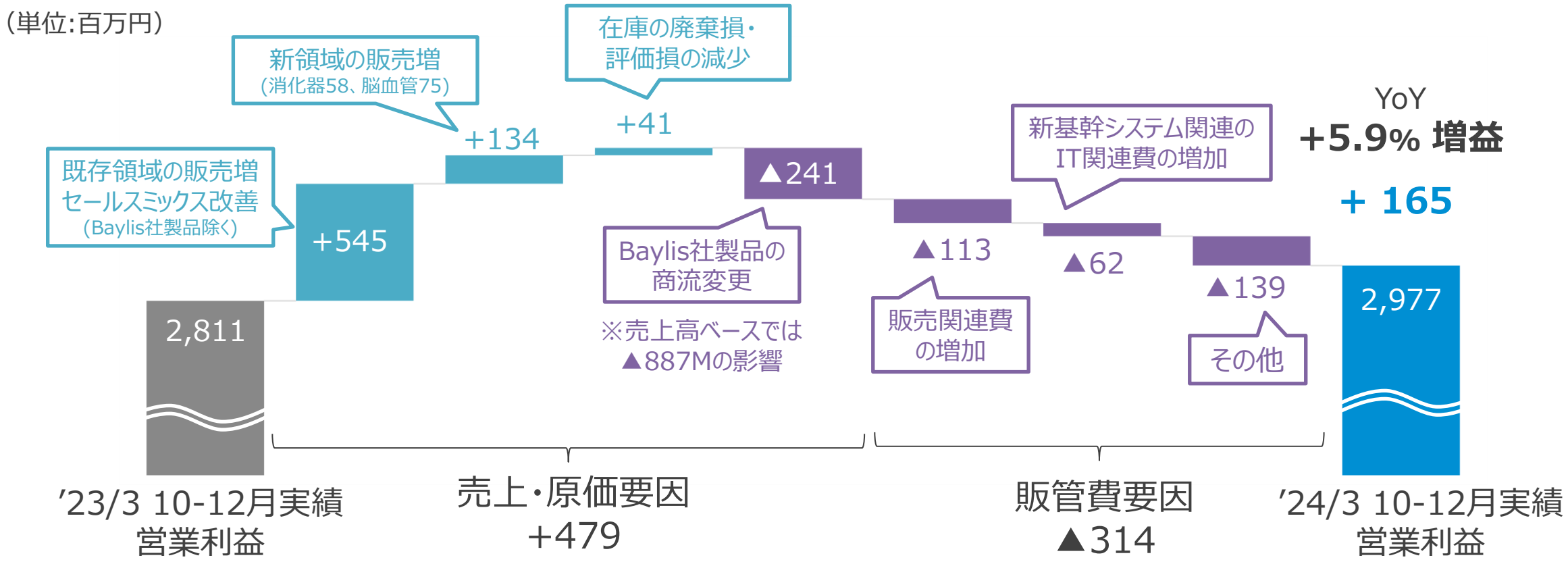
四半期純利益　YoY +146.1% 増益

(+) 前年同期に特別損失あり(投資有価証券評価損) (+1,190M)

2024/3期 連結営業利益 増減分析（Q3 10-12月）

Japan Lifeline

✓ 既存領域と新領域がともに順調に進捗。Baylis社製品の商流変更や新基幹システムの稼働開始(Q3)に伴うコスト増をカバーし、**営業増益**



事業環境 現時点から6か月先の見通し

事業領域	品目	2024/3期 Q3 実績		2024/3期 Q4 予想		2025/3期 Q1予想	
リズムディバイス	ペースメーカ関連	↗ 前回: →	自主回収の対応で交換症例増加へ、他社リードレス製品との競争	→ 前回: →	直前Qから大きな変化なし(交換症例増・他社リードレス製品との競争継続)	→	直前Qから大きな変化なし(交換症例増・他社リードレス製品との競争継続)
	ICD関連	→	S-ICD好調	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD順調)	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD順調)
EP/アブレーション	EPカテーテル	→	AF症例の堅調な伸び(YoY+8~9%)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調)
	ABLカテーテル	→ 前回: ↗	HeartLight X3品薄は改善も拡販に遅れ	→ 前回: →	直前Qから大きな変化なし(拡販遅れ)	↗	HeartLight X3販売上向きを予想
	その他	↗	止血デバイス販売開始・初期販売良好	↗	直前Qより止血デバイスの拡販さらに進む	↗	直前Qより止血デバイス拡販さらに進む、Sシースも販売改善へ
心血管関連	人工血管関連	↗	季節性の増(YoY+6%)、オープンステントグラフト(OSG)市場拡大、新製品	↗ 前回: →	季節性の増、OSG伸長(YoY+4~5%程度)	↘	季節性の減
	脳血管関連	↗	新商品の導入効果、預託施設拡大	↗	預託施設拡大継続、新商品の追加	↗	預託施設拡大継続、新商品の追加
消化器	消化管関連	→	自主回収の影響(胃・十二指腸ステント)	→	直前Qから大きな変化なし	→	直前Qから大きな変化なし
	胆膵関連	↗	チューブステントのさらなる浸透	→ 前回: ↗	シェア拡大一巡、マイルドな浸透	→	直前Qから大きな変化なし

＊ 矢印は前QからのQoQベースでの売上高に影響する事業環境のトレンド変化を表す（上向き、横ばい、下向きの3段階で評価）
前回から見解の変更がある場合は、前回の見解を併記してコメントを赤字で記す

当期のIRニュース（適時開示以外のPR情報）1/2

(前期)本決算発表以降

- 2023-05-10 血栓吸引カテーテルの販売開始に関するお知らせ
- 2023-06-01 医師向け会員制WEBサイト「JLLプラス（JLLplus）」がオープン
- 2023-06-05 スポンサードレポートの発行のお知らせ
- 2023-06-19 医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格MDSAP認証を取得
- 2023-06-28 大腿静脈用止血デバイスの独占販売契約の締結に関するお知らせ

Q1決算発表以降

- 2023-08-09 「JPX日経中小型指数」構成銘柄への選定に関するお知らせ
- 2023-08-21 オープンステントグラフトの新製品「Frozenix Partial ET」の販売開始のお知らせ
- 2023-10-05 2023年度グッドデザイン賞 受賞のお知らせ
- 2023-10-17 大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」の保険適用のお知らせ
- 2023-10-27 経カテーテル生体弁の独占販売契約の締結に関するお知らせ

当期のIRニュース（適時開示以外のPR情報）2/2

Q2決算発表以降

- 2023-12-06 スポンサードレポートの発行のお知らせ ⇒ レポート直リンク
- 2023-12-25 コーポレートガバナンスに関する報告書(更新)
- 2024-01-23 統合報告書の発行のお知らせ

用語集

ページ	用語・略称	
4	Baylis	Baylis Medical Company, Inc. 2022年2月にBoston Scientific社が買収。
4	AF (心房細動)	Atrial Fibrillation (心房細動) 心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えてけいれんする心臓の病気
4	CI事業	Coronary Intervention (冠動脈インターベンション) 事業。心筋梗塞などの虚血性心疾患を治療する冠動脈ステント、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等を取り扱う。この事業領域は、競争過多で市場価格の下落が厳しく、症例数も今後減少する見込みとなったことを受け、当社は2024/3期中に同事業から撤退する予定
5	新領域	消化器及び脳血管の領域 心臓以外の領域で当社が中期で重点的に取り組む領域として定める
5	既存領域	心臓の領域。不整脈 (リズムディバイス、EP/アブレーション) 、大動脈瘤 (心血管関連) 、構造的心疾患 (心血管関連) に関する製品ラインナップ
5	自社製品比率	売上高に占める自社製品の比率。売上総利益率 (粗利率) と高く相関
12	心房中隔欠損閉鎖器具	先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患 (心房中隔欠損症) を、外科手術を行うことなく閉鎖することが出来る植込み型の医療機器
16	Lumen BeeAT	自社製心腔内除細動カテーテル「BeeAT」の15番目のラインナップ カテーテルが筒状(ルーメン)になっており、中から細径のEPカテーテルやガイドワイヤーを先行させ使用することができる
16	適応拡大	医療機器の使用推奨範囲が拡大すること。従来は一定の条件下で推奨とされていたものが、臨床エビデンスの蓄積によりガイドラインの改定等が行われ、より幅広いケースで推奨となること。また、新たな保険の算定要件や新たな保険償還価格を獲得すること。適応拡大は、医療機器の市場拡大、シェア拡大の契機となる
16	TAVI	Transcatheter Aortic Valve Implantation の略 カテーテルを用いて人工で作られた弁を心臓まで運び、機能が低下した大動脈弁の内側に人工弁を取り付ける治療のこと
24	リードレス(ペースメーカー)	リードを使用せず、本体とリードが一体化したカプセル型の心臓ペースメーカ

会社概要等

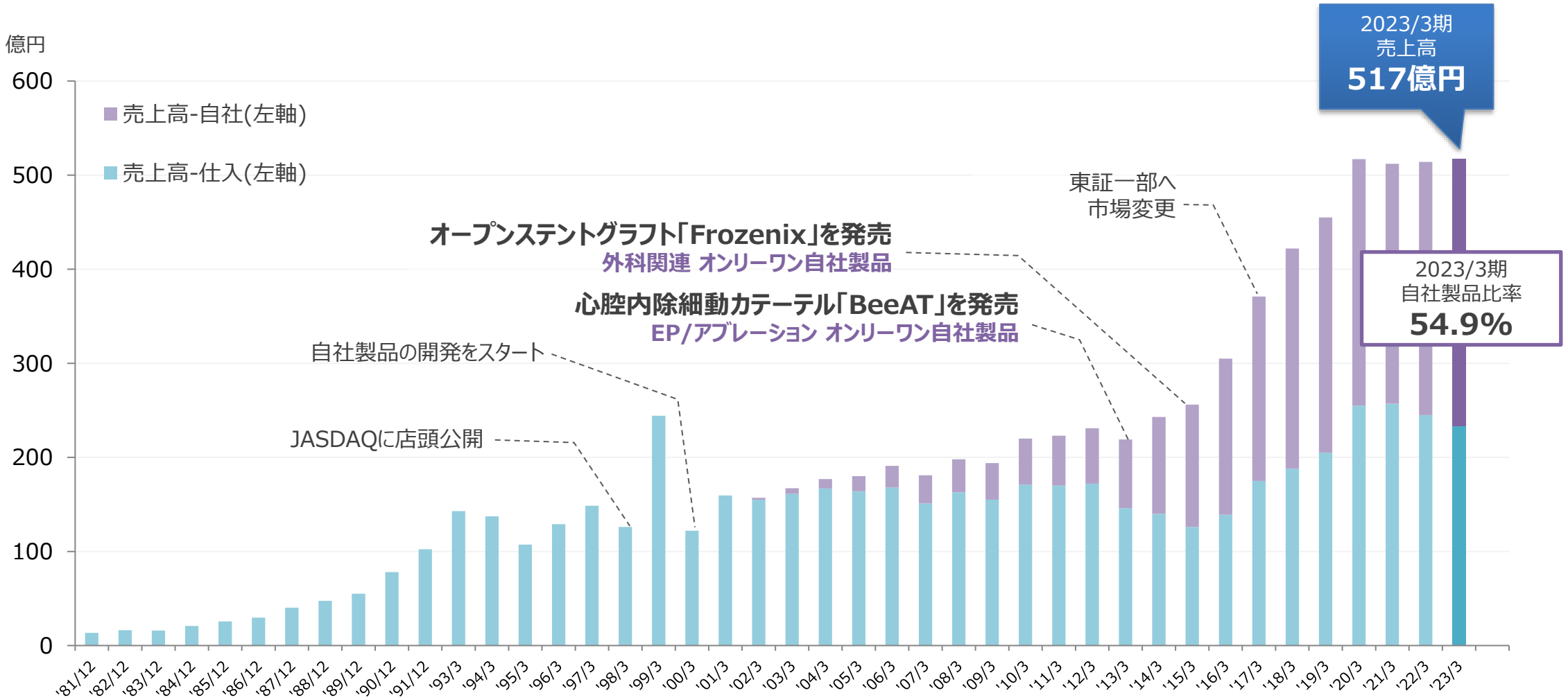
会社概要

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,177名/単体958名（2023年9月30日 現在）
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2023年9月30日 現在）
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

トラックレコード

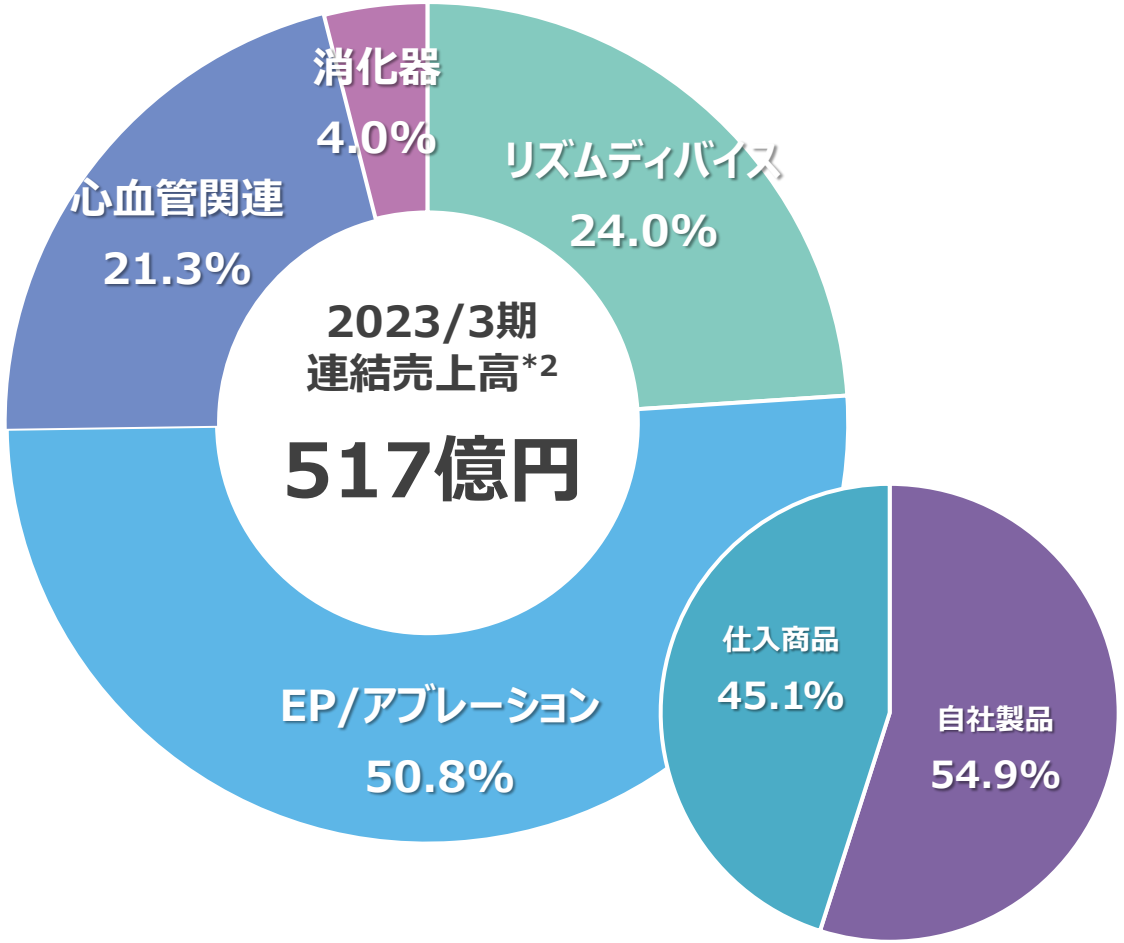
Japan Lifeline

✓ 業界で類を見ないメーカー/商社のビジネスモデルと、オンリーワンの自社製品を軸に成長



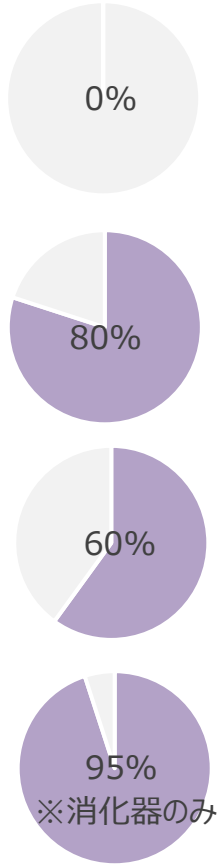
事業領域

- ✓ メインの疾患領域は**心臓血管領域**であり、4つの品目区分に分類される
- ✓ 新領域として、**消化器**と**脳血管**[*1]にも注力し、疾患領域を拡大へ



リズム ディバイス	• **不整脈**を治療する体内植込み型の医療機器（BSJ社[*3]との長期独占販売契約）
EP/ アブレーション	• **不整脈**の検査や治療を行う使い捨てのカテーテルなどの医療機器
心血管関連 *4*6	• **大動脈瘤**などを治療するための人工血管やステントグラフトなどの医療機器 • **脳動脈瘤**や**脳卒中**を治療するための医療機器
消化器*5*6	• **消化器疾患**を治療する医療機器

自社製品比率



*1 品目区分では、「心血管関連」に該当
*2 2024/3期から品目区分を刷新しております。ここでは2023/3期の内訳を新区分で表示しています
*3 Boston Scientific Japan社 （Boston Scientific Corporation (米)の日本子会社）

*4 2023/3期末 名称変更 旧：「外科関連」⇒ 新：「心血管関連」
*5 2023/3期末 名称変更 旧：「消化器/PI」 ⇒ 新：「消化器」
*6 心房中隔欠損閉鎖器具は旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」に移動

商品紹介 リズムディバイス

Japan Lifeline

✓ 不整脈(心臓の拍動が遅くなる、または早くなる疾患)を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカ関連

心臓ペースメーカ

商品名：Accolade（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格

シングルチャンバ　454,000円

デュアルチャンバ　593,000円

CRT-P (両心室心臓ペースメーカ)

商品名：Visionist X4（Boston Scientific社製）



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与える、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,290,000円

ＩＣＤ関連

T-ICD (経静脈植込型除細動器)

商品名：Resonate（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ　2,730,000円

デュアルチャンバ　2,820,000円

S-ICD (完全皮下植込型除細動器)

商品名：Emblem MRI（Boston Scientific社製）



T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓へ異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 EP/アブレーション

Japan Lifeline

✓ 不整脈の検査や治療を行う、ディスポーザブルの電極付カテーテルなどの医療機器

ＥＰカテーテル関連

EP（電気生理用）カテーテル

製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar（自社製品）



不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。

保険償還価格

標準型(電極数3～5)　46,800円

温度センサ付(エソファスター)　85,400円

心腔内除細動カテーテル

製品名：BeeAT（自社製品）



アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

保険償還価格

214,000円

ＡＢＬカテーテル関連

アブレーションカテーテル

製品名：Ablaze（自社製品）



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることにより治療します。

保険償還価格

通常型　117,000円

内視鏡レーザーアブレーションカテーテル

商品名：HeartLight X3（Cardio Focus社製）



バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。

保険償還価格

505,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 EP/アブレーション （続き）

Japan Lifeline

✓ 心房細動のアブレーション手術に関連する医療機器

その他

スティーラブルガイディングシース

商品名：Leftee（自社製品）



診断又は治療のためのカテーテルを経皮的に心臓に挿入するために使用されます。先端部は、ハンドルの回転ノブを操作することで、屈曲させることができます。

保険償還価格

118,000円

大腿静脈用止血デバイス

商品名：VASCADE MVP (Haemonetics社製)



アブレーション手術等の後に穿刺部 (太腿) の止血を行うために用いられます。体内吸収性のコラーゲンを用いて止血するもので、術後の止血時間および安静期間の短縮化が期待できます。

保険償還価格

28,400円

(条件により1症例4セットまで保険算定可)

ATパッチ心電図レコーダ

商品名：ATパッチ (ATsens社製)



世界最小クラスのコードレス心電図レコーダであり、小型・軽量の使い捨てのパッチを体表面に貼ることで検査を行います。最長7日間の長期データ記録が可能です。

保険償還価格

17,500円

(ホルター型心電図検査 8H超の場合)

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 心血管関連

Japan Lifeline

- ✓ 大動脈: 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器
- ✓ 脳血管: 脳梗塞や脳動脈瘤を治療するための医療機器

人工血管関連

人工血管

製品名：J Graft（自社製品）



開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

保険償還価格

分岐なし（ストレート）117,000円
1分岐（T字）179,000円
2分岐以上（4分岐）245,000円

(腹部用)ステントグラフト

商品名：AFX2, Alto (Endologix社製)



外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

保険償還価格

標準型（AFX）1,320,000円
ポリマー充填型（Alto）1,430,000円

オープンステントグラフト

製品名：Frozenix（自社製品）



大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。

保険償還価格

1,110,000円

脳血管関連

塞栓用コイル

商品名：Avenir（Wallaby Medical社製）



脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。

保険償還価格

ワイヤー式 82,900円

血栓吸引カテーテル

商品名：Esperance（Wallaby Medical社製）



脳血管内にカテーテルを挿入し血栓を回収することで、急性期脳梗塞の治療を行います。

保険償還価格

273,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 消化器

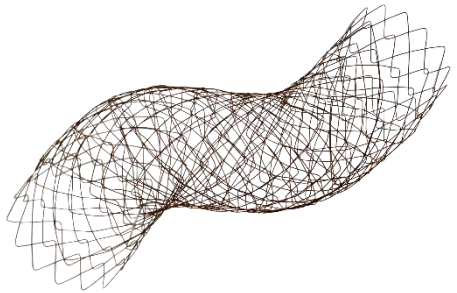
Japan Lifeline

✓ 消化器：肝臓や大腸などの消化器疾患を治療する医療機器

消化器

大腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Colonic Stent（自社製品）



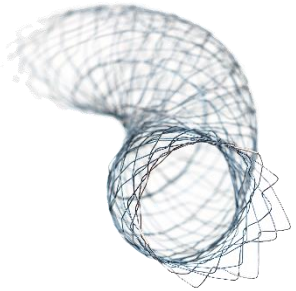
癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格

216,000円

胃・十二指腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Duodenal Stent（自社製品）



癌により閉塞した胃や十二指腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格

216,000円

肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

製品名：arfa（自社製品）



超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。

保険償還価格

なし。保険区分A2(特定包括)で特定の診療報酬項目において包括的に評価される。

胆管チューブステント

製品名：REGULUS（自社製品）



胆管が胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった箇所にステントを留置し広げることで、胆汁の流れを改善して治療します。

保険償還価格

45,600円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

開発生産拠点

✓ 国内４拠点、海外１拠点の体制でメーカー機能を支える

研究開発

研究開発統括部（埼玉県戸田市）
Medical Technology Park North Square



2018/4～

中核工場

戸田ファクトリー（埼玉県戸田市）
Medical Technology Park South Square



2012/1～

量産・滅菌工場

小山ファクトリー（栃木県小山市）



2014/10～

血管製品の開発・生産

市原ファクトリー（千葉県市原市）



2011/1～

海外工場

マレーシア工場（マレーシアペナン州）
JLL Malaysia Sdn.Bhd.



2020/6～

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp